

金融工学勉強会第 5 回

朝倉響

2024 年 7 月 26 日

前回の復習と今回の概要

- 前回 (2024 年 8 月 16 日)
—
- 今回 (2024 年 8 月 23 日)
—

5.4 資産価格評価の基本定理

表記

- \mathbb{P} : 実確率測度
- $\mathcal{F}(t)$: ブラウン運動に関連するフィルトレーション
— 必ずしも「ブラウン運動から生成するフィルトレーション」とは限らない
- $\mathcal{F} = \mathcal{F}(T)$
- $W(t)$: $(\Omega, \mathcal{F}, \mathbb{P})$ 上 d 次元ブラウン運動

5.4.1 ギルサノフの定理とマルチンゲールの表現定理

定理 5.4.1 (多次元ギルサノフの定理). $\Theta(t)$: d 次元適合過程

$$Z(t) := \exp \left\{ - \int_0^t \Theta(u) \cdot dW(u) - \frac{1}{2} \int_0^t \|\Theta(u)\|^2 du \right\} \quad (5.4.1)$$
$$Z := Z(T)$$

$$\widetilde{W}(t) := W(t) + \int_0^t \Theta(u) du \quad (5.4.2)$$

$$\text{ただし } \mathbb{E} \int_0^T \|\Theta(u)\|^2 Z^2(u) du < \infty \quad (5.4.3)$$

とすると, $\mathbb{E}Z = 1$ であつ, 確率測度 $\widetilde{\mathbb{P}}$

$$\widetilde{\mathbb{P}}(A) := \int_A Z(\omega) d\mathbb{P}(\omega), \quad A \in \mathcal{F}$$

に対し、 $\widetilde{W}(t)$ は $\widetilde{\mathbb{P}}$ の下で d 次元ブラウン運動.

証明. $\widetilde{W}(t)$ は時刻 0 で値 0 を取り、連続な経路を持つマルチンゲール (マルチンゲールである証明の流れは 1 次元の場合と同様である*1. ただし、多次元の計算が含まれることに注意). 2 次変分を考える.

$$\begin{aligned} d\widetilde{W}_i(t)d\widetilde{W}_j(t) &= (dW_i(t) + \Theta_i(t)dt)(dW_j(t) + \Theta_j(t)dt) \\ &= dW_i(t)dW_j(t) = \begin{cases} dt & (i=j) \\ 0 & (i \neq j) \end{cases} \quad (W(t) \text{ は } d \text{ 次元ブラウン運動}) \end{aligned}$$

結果、レヴィの定理より $\widetilde{W}(t)$ は $\widetilde{\mathbb{P}}$ 上 d 次元ブラウン運動. □

- \mathbb{P} と $\widetilde{\mathbb{P}}$ は同値*2: 実確率測度 \mathbb{P} とリスク中立確率測度 $\widetilde{\mathbb{P}}$ で何が起こり得るかは一致.
- $\widetilde{W}(t)$ の各成分は \mathbb{P} のもとで独立でないこともあるが、 $\widetilde{\mathbb{P}}$ のもとでは独立.

定理 5.4.2 (多次元のマルチンゲール表現定理). 仮定

- $\mathcal{F}(t)$: d 次元ブラウン運動 $W(t)$ から生成されるフィルトレーション (より強い仮定)
- $M(t)$: $\mathcal{F}(t)$ に関するマルチンゲール

このとき、 d 次元適合仮定 $\Gamma(t)$ が存在して

$$M(t) = M(0) + \int_0^t \Gamma(u) \cdot dW(u). \quad (5.4.4)$$

さらに、定理 5.4.1 の仮定が成り立ち、 $\widetilde{M}(t)$ が $\widetilde{\mathbb{P}}$ -マルチンゲールとすると、 $\widetilde{\Gamma}(t)$ が存在して

$$M(t) = M(0) + \int_0^t \widetilde{\Gamma}(u) \cdot d\widetilde{W}(u). \quad (5.4.5)$$

証明. (証明は省略) □

5.4.2 多次元市場モデル

m 種類株式

$$dS_i(t) = \alpha_i(t)S_i(t)dt + \sum_{j=1}^d \sigma_{ij}(t)S_j(t)dW_j(t), \quad i = 1, \dots, m \quad (5.4.6)$$

期待収益率ベクトル: $(\alpha_i(t))_{i=1, \dots, m}$
ボラティリティ行列: $(\sigma_{ij}(t))_{i=1, \dots, m; j=1, \dots, d}$ } 適合過程

ここから調べたいこと

*1 $Z(t)$ がラドン-ニコディム過程であること、 $\widetilde{W}(t)Z(t)$ がマルチンゲールなことを示し、補題 5.2.2 を使う

*2 一般の測度変換は $\widetilde{\mathbb{P}} \ll \mathbb{P}$ だが、いま Z はほとんど確実に正であり、 $\widetilde{\mathbb{P}}(B) = 0$ なる B に対し

$$\mathbb{P}(B) = \mathbb{E}\mathbb{I}_B = \widetilde{\mathbb{E}} \left[\frac{\mathbb{I}_B}{Z} \right] = 0$$

より $\widetilde{\mathbb{P}} \gg \mathbb{P}$.

- $S_i(t)$ のボラティリティ
- S_i と S_k の相関
- 多次元市場モデルでのリスク中立測度が存在する必要十分条件
 - リスク中立測度が存在すると何が嬉しいか
 - このリスク中立測度は一意か

S_i のボラティリティ

以下を定義する

$$\begin{aligned}\sigma_i(t) &= \sqrt{\sum_{j=1}^d \sigma_{ij}^2(t)} \\ B_i(t) &= \sum_{j=1}^d \int_0^t \frac{\sigma_{ij}(t)}{\sigma_i(t)} dW_j(t) \\ &\text{連続なマルチンゲール} \\ dB_i(t)dB_i(t) &= \sum_{j=1}^d \frac{\sigma_{ij}^2(t)}{\sigma_i^2(t)} dW_j(t)dt = dt\end{aligned}\tag{5.4.7}$$

このとき, $B_i(t)$ は (1 次元) レヴィの定理よりブラウン運動.

$$dS_i(t) = \alpha_i(t)S_i(t)dt + \sigma_i(t)S_i(t)dB_i(t)\tag{5.4.8}$$

$S_i(t)$ のボラティリティは $\sigma_i(t)$.

S_i と S_k の相関

$$\begin{aligned}dS_i(t)dS_k(t) &= \sigma_i(t)\sigma_k(t)S_i(t)S_k(t)dB_i(t)dB_k(t) \\ &= \sigma_i(t)\sigma_k(t)S_i(t)S_k(t) \underbrace{\sum_{j=1}^d \frac{\sigma_{ij}(t)\sigma_{kj}(t)}{\sigma_i(t)\sigma_k(t)}}_{=:\rho_{ij}(t)} dt \\ &= \rho_{ik}(t)\sigma_i(t)\sigma_k(t)S_i(t)S_k(t)dt\end{aligned}\tag{5.4.13}$$

- $\sigma_i(t)$: S_i の時刻 t での相対変化の瞬間的標準偏差
- $\rho_{ik}(t)$: S_i と S_k の相対変化の瞬間的な相関

5.4.3 リスク中立測度の存在

定義 5.4.3 (リスク中立). 条件

- $\tilde{\mathbb{P}}$ と \mathbb{P} が同値
- 割り引かれた株価 $D(t)S_i(t)$ が $\tilde{\mathbb{P}}$ の下でマルチンゲール ($\forall i = 1, \dots, m$)

を満たす確率測度 $\tilde{\mathbb{P}}$: リスク中立測度.

割り引かれた株価過程

- $R(t)$: 金利過程 (適合過程)
- $D(t) = e^{-\int_0^t R(u) \, du}$: 割引過程
- $D(t)S_i(t)$: 割り引かれた株価

$$\begin{aligned}
 d(D(t)S_i(t)) &= D(t)dS_i(t) + S_i(t)dD(t) + dS_i(t)dD(t) \\
 &= D(t) (\alpha_i(t)S_i(t) \, dt + \sigma_i(t)S_i(t) \, dB_i(t)) - S_i(t)R(t)D(t) \, dt \\
 &= D(t)S_i(t) [(\alpha_i(t) - R(t)) \, dt + \sigma_i(t) \, dB_i(t)]
 \end{aligned} \tag{5.4.15}$$